

**Q. 教育活動における部活動のあり方について、どのように考えているか？（生活面・習慣など）**

■子供たちがどんな特性をもっているかなど、指導する際に学校側としっかり連携を取ることが必要。  
■共通の目標に向かっており、目標がはっきりしている。自己実現の経験をしやすく、努力が形となって現れる。その結果によって次の目標設定が出来る。  
■表現力豊かな子供になってもらえるよう努力している。

**Q. 部活動を行う上での環境整備について（備品や人材の不足など）感じていることは？**

■楽器を維持するに当たり、修理に費用がかかる。良い楽器で吹くと良い音が出るので、錆びた楽器を使うのは心苦しい。  
■生徒数が減少していることで、他校との合同チームとなり活動が制限される。  
■学校の部活に参加しないで地域のクラブに参加している子も多くなっている。同じ学校でも、学校の部活の子、地域のクラブの子もいる。  
■人数がいたときはうまく道具の引渡しができるが、少人数のためスムーズに引渡しができない。市としてうまく引渡しができる、道具のリサイクルなどのシステムがあれば部活に入りやすくなるのではないかと。  
■部活で使用する道具を揃えるのに費用がかかる。市内で道具など不必要なものがやりとりできるシステムがあればよい。

**Q. 湯沢市や湯沢市議会に期待することは？**

■スポーツ指導を行うには体育館などの冷暖房設備が必要だと思ふ。素晴らしい施設を整備し、スポーツを通して湯沢をアピールしてほしい。  
■子育て世代の議員が感じたことを率直に議会で話題にして

いただき、子供たちのためにぜひ頑張っていたきたい。  
■子供たちの活躍が記事になることは、地域の方々に元気を与える。さまざまな活動や頑張っている姿を順次紹介してほしい。  
■部活動を行う上で、移動や道具などにかかる経費も多く、負担が大きくなっている。子供たちが精一杯頑張れるように、負担軽減につながる環境整備をお願いしたい。



**委員長** 休日の部活動の地域移行について、本市の目指す将来像や実施に当たった課題についてはどのように考えていますか。

**船山課長** 部活動の地域移行をきっかけに、市全体のスポーツや芸術文化活動が活性化し、生きがいづくりにつながっていったら、という将来像を描いています。現在、少子化により学校の部活動の種目が限定されたり、合同チームなどを編成したりしている現状がありますが、地域という大きな枠組みで活動することにより、子供たちが興味を持ったことを自由に選択できる、挑戦できる体制づくりが大きな課題と考えています。また、教員の長時間労働解消の観点から、これまで教員が行ってきた部活動指導を地域の指導者が担うことができるのか、指導者の人材確保や育成、活動場所、会費、学校の指導との一貫性など、多くの課題があると考えます。

**委員長** 令和5年から段階的な地域移行が始まりますが、本市として指導者の確保も踏まえ、どのように進めていくのでしょうか。

**船山課長** 種目によって状況が異なることから、それぞれの団体と対話を繰り返し、部活動協議会などで共通理解を図りながら、じっくりと進めていきたいです。また、それぞれの団体に合った形を作り、それを好事例として地域全体に広めていけると考えています。国の動向、県の動向を注視して、本市の推進状況を確認しながら、軌道修正したり、受けられるサポートを最大限に活用したりしていきます。

